

# 令和6年度 武蔵野市地域公共交通活性化協議会（東京都武蔵野市） （地域公共交通計画策定事業）

## 公共交通の概況・地域の特徴

市域は面積10.98kmとコンパクトで、高い人口密度となっています。地形は平たんで、緑豊かで閑静な住宅地の広がりとともに、都内有数の商業地や企業の先端研究施設、多くの教育機関などを有する拠点都市である。

鉄道駅3駅（吉祥寺駅・三鷹駅・武蔵境駅）、路線バス4事業者（小田急バス・関東バス・京王電鉄バス・西武バス）、コミュニティバス「ムーバス（7路線9ルート）」、タクシー（武三地区・東京23区）によって公共交通ネットワークが形成されている。市の福祉交通施策としては、移送サービス「レモンキャブ」（福祉有償運送）とリフトタクシー「つながり」のサービスがある。多種多様なサービスが充実しており、市内のバス交通空白・不便地域の解消は概ね達成している。

## 地域の抱える問題点・計画策定調査の必要性

人口増加が見込まれる本市において、増加する後期高齢者や子育て世帯などの多様なニーズに対応することに加え、駅周辺の混雑（歩行者・バス・タクシー・自転車・自家用車等）や来街者・インバウンドの増加、新型コロナウイルス感染症の影響、運転手不足など、取り巻く環境が大きく変わってきており、持続可能な公共交通ネットワーク形成に向けては、現計画策定から約4年が経過し、改めて実態・ニーズ等を把握した上で、今後の方向性や施策展開を検討し、計画を改定していくことが必要である。

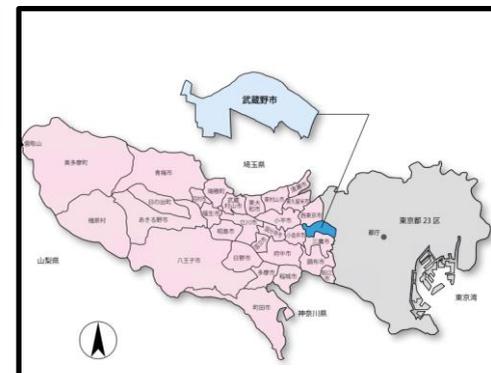
## アピールポイント

計画の改定には、実態・ニーズ等を把握した上で、公共交通の需要と供給の状況等を踏まえ、路線バス・ムーバス・タクシー・自転車・福祉交通等の多様なモードを横断的に再構築し、最適かつ効率的なネットワーク及びサービスのあり方を検討する必要がある。特に、深刻化している運転手不足への対応、駅周辺の交通環境の改善や、自転車・福祉交通とバス交通の連携施策は、本市の将来交通体系を検討する上で重要な視点となる。

このため、地域公共交通の実態・ニーズを把握するために、住民グループインタビューで住民の生の声を聞きとったほか、コミュニティバス、路線バス、タクシーそれぞれ利用者アンケートを実施するなどきめ細かい調査を実施している。

また、各種調査に基づき、現計画及びムーバス事業の評価・検証を行うとともに、地域公共交通を取り巻く課題を再整理した。

次年度は、上位関連計画との整合を図りつつ、地域交通のビジョン・目標及び施策体系を示すマスタープランとしての「武蔵野市地域公共交通計画」として改訂していく。



面積	10.98km <sup>2</sup>
人口（R6.4.1時点）	148,079人
15歳未満	17,329人
65歳以上	33,435人
高齢化率	22.58%

## 協議会開催状況

令和6年度の開催状況（予定含む）

・第1回（令和6年7月9日）  
策定スケジュール・内容について  
現計画の進捗状況報告

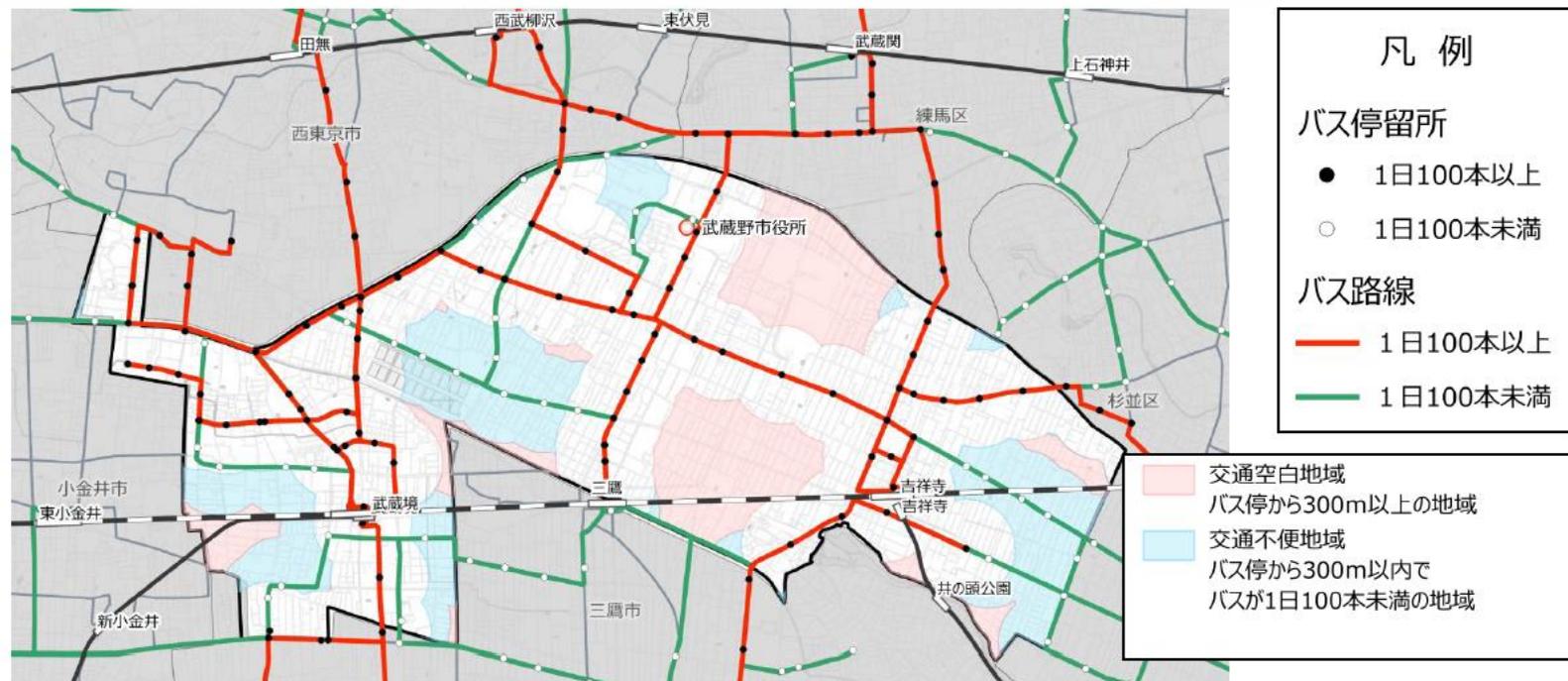
・第2回（令和6年11月18日）  
現況データの整理・分析  
住民グループインタビュー・事業者  
ヒアリング結果報告  
利用者アンケート確認  
現計画の評価・検証

・第3回（令和7年2月20日）※予定  
利用者アンケート結果報告  
地域公共交通を取り巻く課題整理  
市民アンケート確認

# 武蔵野市地域公共交通の現状

## 公共交通の運行状況（路線バス）

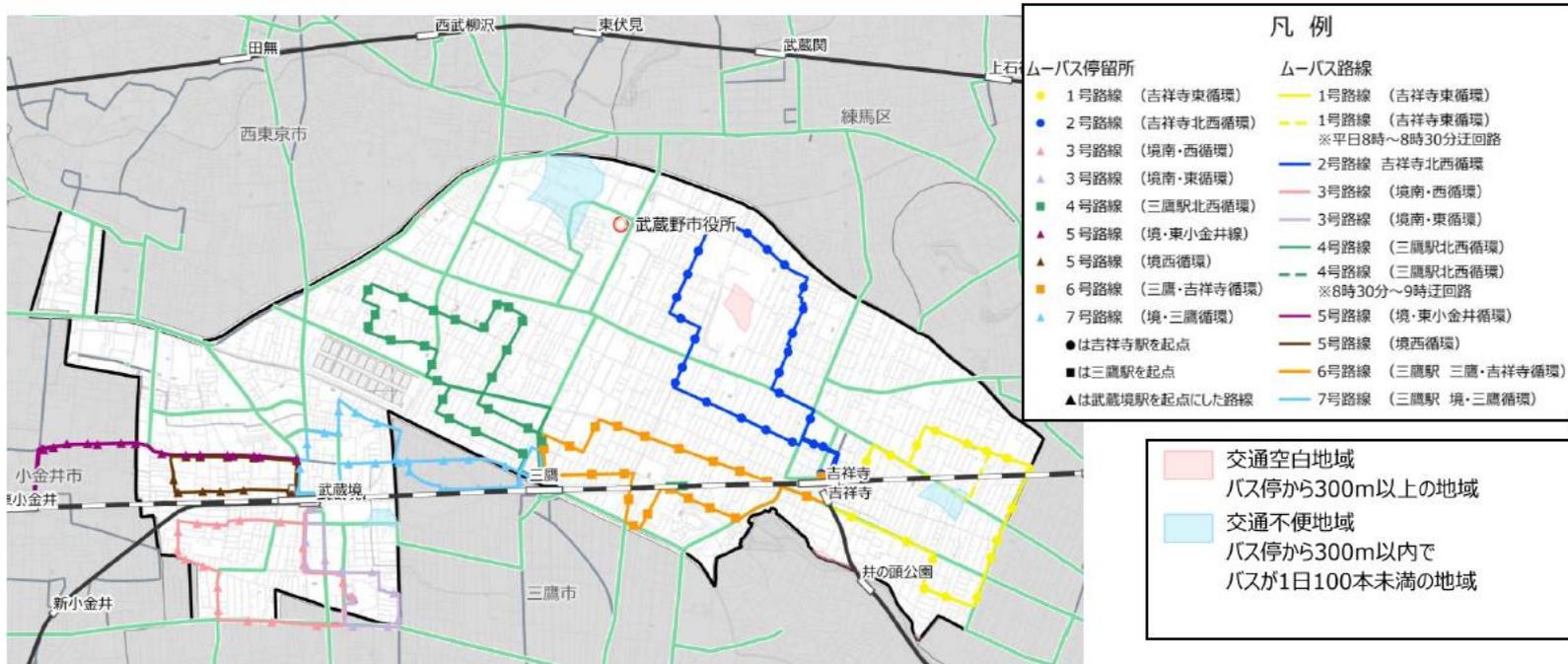
現計画策定時と比較して、サービス水準の大きな変化はみられなかった。



# 武蔵野市地域公共交通の現状

## 公共交通の運行状況（ムーブス）

現計画策定時と同じサービス水準を維持している。



出典：武蔵野市生活環境指標 令和4年版

## ○参考資料

※令和6・7年度(2か年)で計画策定予定であり、今年度は調査・分析実施中心で、骨子案が未作成のため、策定の全体像を資料として提出いたします。

地域公共交通計画は、現計画(武蔵野市地域公共交通網形成計画)をベースに公共交通を取り巻く環境の変化等を踏まえ、検討を進める。

### 現計画(武蔵野市地域公共交通網形成計画)

#### <地域公共交通の課題>

課題①交通モードの連携・役割分担により、多種多様な移動ニーズに対応することが必要

課題②地域共生社会に対応したきめ細かな地域公共交通網の形成が必要

課題③自転車交通と地域公共交通の連携が必要

課題④道路空間や駅前空間の効果的な運用が必要

課題⑤武蔵野市の状況に適した分かりやすい情報提供が必要

#### <基本理念>

「誰もが安心して暮らし続けられる口魅力と活力があふれるまち」づくりに貢献する持続可能な交通体系の構築

#### <基本方針・基本目標>

基本方針1 高齢になっても障害があっても住み慣れた地域で暮らし続けられ、子育て世代も移動しやすい地域公共交通

目標① 利便性の高い地域公共交通ネットワークが維持されている

目標② 交通・福祉等の分野の垣根を超えた取り組みにより、市民の移動が保障されている

基本方針2 住む人・訪れる人にとって、分かりやすく利用しやすい地域公共交通

目標③ 駅周辺の交通需要の平準化が図られている

目標④ 誰もが迷わず分かりやすい情報が提供されている

基本方針3 多様な関係者と連携し、地域や経済に活力をもたらす地域公共交通

目標⑤ 3駅周辺において「安全で歩いて楽しいまち」が形成されている

目標⑥ 交通サービスを提供するための基盤(交通環境)が整っている

#### <施策・事業>

施策① バス交通の高密度ネットワーク・高頻度サービスの維持

施策② 福祉交通の維持・確保

施策③ 交通・福祉分野の「間」需要への対応

施策④ 自転車交通等とバス交通の連携

施策⑤ 分かりやすい情報の提供

施策⑥ 駅周辺まちづくりと連携した交通空間の有効活用

施策⑦ 運行環境の整備

### 公共交通を取り巻く環境の変化

#### ■まちづくりの変化

・上位・関連計画の改定

→第六期長期計画・調整計画(R6~R10)の策定

→都市マスタープラン2021の策定

→武蔵野市自転車等総合計画が改定作業中

・東京における地域公共交通の基本方針の策定(R4)

→武蔵野市は「新都市生活創造域」に位置付け

・自家用車活用事業制度の創設

#### ■社会環境の変化

・新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化

・公共交通分野のDXの進展

→AI配車、デジタルチケット、アプリ間連携等

・改善基準告示の改正(ドライバー拘束時間短縮等)

・インフレ、資材高騰、人件費の向上等によるコスト面への影響

・働き方改革の浸透(主に、長時間労働の是税や柔軟な働き方の推進、テレワークの普及等)による影響

・公共交通計画の実質化に向けた検討の進展

### 現況データ整理

#### ■地域特性

・令和6年1月時点の総人口は、147,809人であり、令和元年度と比較すると微増傾向である

・令和6年1月時点の市民の平均年齢は45歳、高齢化率は約23%である

・第六期長期計画・調整計画の将来人口推計によると、今後も人口が増加し、高齢化も進行すると推計されている

・第六期長期計画・調整計画の将来人口推計によると、今後も人口が増加し、高齢化も進行すると推計されている

・第六期長期計画・調整計画の将来人口推計によると、今後も人口が増加し、高齢化も進行すると推計されている

・第六期長期計画・調整計画の将来人口推計によると、今後も人口が増加し、高齢化も進行すると推計されている

#### ■公共交通の現状

・令和4年の鉄道駅乗車人数は、1日あたり約33万人であり、コロナ前と比較すると約8割の利用者数である

・令和4年度の市内運行路線の路線バス乗客数は、1日あたり約17万4千人であり、コロナ前と比較すると約8割の乗客数となっている

・令和5年度のムーバス乗客数は、1日あたり約6,800人であり、コロナ前と比較すると約9割の乗客数である

・令和5年度のムーバス乗客数は、1日あたり約6,800人であり、コロナ前と比較すると約9割の乗客数である

・令和5年度のムーバス乗客数は、1日あたり約6,800人であり、コロナ前と比較すると約9割の乗客数である

・令和5年度のムーバス乗客数は、1日あたり約6,800人であり、コロナ前と比較すると約9割の乗客数である

・令和5年度のムーバス乗客数は、1日あたり約6,800人であり、コロナ前と比較すると約9割の乗客数である

・令和5年度のムーバス乗客数は、1日あたり約6,800人であり、コロナ前と比較すると約9割の乗客数である

・令和5年度のムーバス乗客数は、1日あたり約6,800人であり、コロナ前と比較すると約9割の乗客数である

### 武蔵野市地域公共交通計画策定のポイント

#### <課題整理のポイント>

・新型コロナウイルス感染症に起因するリモートワーク普及等によって、外出需要(行先や回数)に変化が生じている可能性があるため、**外出状況の変化を確認**

し、課題整理を行う必要がある

・公共交通事業者(バス・タクシー)における深刻な**人手不足を踏まえた**課題整理を行う必要がある

・社会環境が変化の中で、ムーバス事業に求められる役割も変化している可能性があるため、ムーバス事業の評価検証を行い、これからの**ムーバスに求められる役割を再確認**する必要がある

#### <基本理念のポイント>

・上位計画となる第六期長期計画の「市政運営の基本理念」と「施策の大綱」の改定は行われていないことから、**現計画と同様**とする

#### <基本方針・基本目標のポイント>

・公共交通事業者における人手不足が深刻化しており、全ての移動ニーズを公共交通だけでカバーすることが難しいため、**充実した基幹交通(路線バス・ムーバス)に加え、面的な交通サービス(タクシー・ライドシェア・レモンキャブ・つながり)等を含めた一體的な検討**が必要である

#### <施策・事業のポイント>

・公共交通分野におけるDX化の取組が進んでいる状況もあることから、本市の課題解決や目標達成に向け、これら**新技術の活用も視野に検討**する

→レモンキャブへの配車システム導入等

・計画に位置付けた施策事業の**着実な実施・効果発現**につなげるため、可能な限り詳細な検討を実施(実施主体、スケジュール、費用負担等を明確にする等)